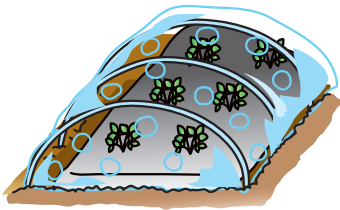
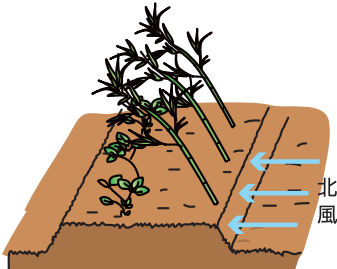


図1 被覆資材を使う



穴開きフィルムのトンネル

図2 身近な材料を使う



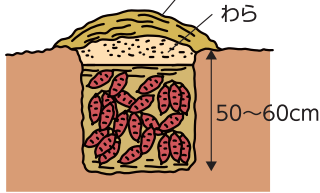
ササタケを畝の北側に斜めに立てる

図3 いろいろな工夫



ハクサイとカリフラワーは外葉を縛っておく

図4 土中貯蔵



サツマイモの場合

寒さの強まるこれからの時期、冬野菜の収穫や菜園の防寒など、大切な作業が控えています。晴れた冬の夜には、地面や野菜から熱が奪われ、急激に温度が下がります。これを放射冷却といい、寒害を起こすおそれがあります。今からしっかりと対策しましょう。

「被覆資材で防寒」  
トンネルや不織布のべた掛けは、防寒効果が高いので、上手に使いましょう。

ただし、トンネルを密閉すると



日中の気温上昇で、かえって軟弱に育ち、耐寒性を低下させます。穴開きフィルムの利用や裾を少し開けておいても防寒効果があります(図1)。

「身近な材料で北風対策」  
北風を防ぐだけで、野菜周辺の気温を高める効果があります。畝を東西方向に作り、北側には約10cm土を盛ると良いでしょう。畝の北側にササタケを斜めに立てて、野菜を風から守る方法は、先人の知恵です(図2)。

「土寄せなどの工夫」  
ダイコン、カブ、ニンジンなどは、地上に出ている肩の部分に土寄せして寒害を防ぎます。ハクサイやカリフラワーは、外側の葉を縛って包みます(図3)。イチゴ、エンドウは、株元に落ち葉や刈り草を敷いて防寒します。

「保存・貯蔵」  
キャベツやハクサイを畑や庭で保存するには、株をぴったり並べ、わらや落ち葉で覆い、上からむしるを掛けます。雪や雨が多い時は、ビニールなどで屋根掛けします。

ダイコンやニンジンなどは、葉部を切り落として、深さ30cmくらいに埋け込みましょう。

イモ類は、水はけの良い場所に掘った深さ50〜60cmの穴で貯蔵します(図4)。サトイモは子芋、孫芋を落とさないようして逆さに埋け、サツマイモは芋づるごと埋けて、30cmほど土を盛り、上からシートを掛けて雨よけします。

あるいは、発泡スチロール製の箱にイモ類を入れて、風が直接当たらない場所で保管し、冬の利用に備えるのも良いでしょう。

## 肥料・農薬のご紹介

### タマネギのべと病に ベトファイター

顆粒水和剤(100g入)



タマネギの葉に黒い斑点ができたり、葉全体が黄色く変色したりしたことはありませんか？



これは「べと病」といって、葉にカビが生えて、作物を枯らしてしまう病気です。

畑の風通しや水はけをよくすることで、ある程度予防できますが「ベトファイター顆粒水和剤」を使うと更に安心です。

#### ◆主な特徴

- ①長期間にわたり高い予防効果が期待できます
  - ②病気の出始めに散布しても効果を発揮し、進行を抑えます
  - ③浸透移行性に優れ、散布ムラに強い
- タマネギの葉は水を弾きやすいので展着剤とともに使うと便利です。
- ※詳しくは、各営農センターまでお問い合わせください